



青葉の笛だより

第29号

令和元年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

五月の末には川崎市多摩区で、スクールバスを待っていた子供たちが刃物を持った男に襲われました。また六月の中頃には、大阪の千里山で交番が襲われて警察官が刺され、拳銃が奪われるという事件がありました。川崎市では二人の方が亡くなり、犯人は自殺しました。千里山の刺された警察官は、一時は生死の境を彷徨という状態になりましたが、一命をとりとめられました。

二人の犯人とも、普段からあまり人と話さずに生活していたようです。前にもお話ししましたが、誰とも話さず生活できるので、感謝する心も少なく、ものの考え方が偏り、損得勘定も激しい。マナーが悪くルールを守らない自分本位の、利己主義で欲深い者、「癒し」なる言葉に踊らされ、思うようにならないと「ストレス」という言葉を借りて、凶悪犯罪や、悪質な詐欺をはたらき、「死にたかったから」と言いながら、弱い人たちに刃を向けるような輩による凶悪な犯罪が目立

ち、本当に安心して、信用して生活ができなくなっています。

お大師様は「ものの興廃は必ず人による、人の昇沈は定めて道にあり。大海は衆流に資って以て深きことを致し、蘇迷は積塵を待つて高きことをなす」と述べられました。これはお大師様が庶民の学校を建てようとして、国の許可と援助を願って書かれた上表文にあるもので、全ての興廃はそこに関わった人によるものであり、ひとの浮き沈みは、古くから伝わる尊き教えを如何に学び、実践してきたかによる。海の深さは幾筋もの川の流れが集まることによって出来るし、高い山も長年にわたる塵が積もることによる、ということです。

難しく考えるのではなく、手を合わせ、おかげ様という謙虚な心、ありがたうという感謝の言葉を積み重ねて暮らすことが、お大師様の説かれる道だと思ふのです。感謝することが苦になる人は、すぐに痼癢を起してしまいます。感謝することが苦にならないように、生きてまいりましょう。ありがたうございました。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三佛に見守られて(10)

―薬師如来

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

薬師如来（薬師仏）は、薬師瑠璃光如来・医王如来・大医王（仏）ともいわれ、東方の浄瑠璃世界の教主であります。

この仏は、医王として人々の病を癒し、苦悩を救って下さる仏として、殊に現世の人々の幸せを願う仏として広く信仰されてきました。（薬師とは、医師のこと。わが国でも、古くは医者のことを「薬師」と呼んでいました。）

さて、薬師如来は、菩薩として修行をしている時に、十二の大願を発して、それを成満して、如来となられたのです。十二大願は、玄奘訳の『薬師瑠璃光如来本願功德経』（略して『薬師本願功德経』）に説かれています。

その大願は左の如くであります。

- | | |
|-----------|-----------|
| (1) 光明普照 | (2) 随意成弁 |
| (3) 施無尽物 | (4) 安立大乘 |
| (5) 具戒清淨 | (6) 諸根具足 |
| (7) 除病安樂 | (8) 転女得仏 |
| (9) 安立正見 | (10) 苦惱解脱 |
| (11) 飽食安樂 | (12) 美衣満足 |

これらの諸願は、衆生が被る数々の病氣や災いや苦悩などを悉く取り除いて、ついには悟りを得させることを期する誓願であります。

とりわけ、(6)の身体の健全と、(7)の無病息災を司る二願が強く意識され、病氣を癒す仏として広く信仰をされてきました。

一体に、人間にとつて、最大の不安や恐れは死であります。薬師如来は、その死を招く病に打ち克つ力を与えてくださる仏として、信仰を集めてきました。

薬師如来の十二大願は極めて現世利益的であり、それが却つて人々を信仰に導くことになったのであります。

もちろん、薬師は現世利益の仏として信仰されていますが、本意は、人々の願望を叶えるだけが目的ではなく、人々を究極の悟りの世界へ導くことでもあります。現世利益は、あくまでも悟りへと導く方便なのです。

ここで、菩薩の「願」（本願・誓願）について、少し説明しておきましょう。本来、悟り（菩提）を求めて修行する菩薩は、まず悩み苦しむ衆生を憐れみ、その衆生を救済するために誓いを立てます。それを実践修行することによって、その誓願に大きな力が備わり、完全なる悟りを開き、仏になれるのです。

その「願」は、要約すれば、次の二

願に尽くされています。

- (1) 上求菩提―上に向つては菩提（悟り）を求めて修行すること。（自力・自利―自らを利益すること。）
- (2) 下化衆生―下に向つては衆生を教化して救済すること。（利他―他人を利益すること）

この二願は、自己の悟りと他人の救済という自他の二利が、同等に見られています。

だが、後になるほど、菩薩の願としては、自利よりも利他が優先されるようになります。

例えば、北本の『涅槃経』には、左の如き文言が説かれています。

自未得度・先度他

ここにある「得度」とは、「苦しみの此岸から涅槃寂靜の彼岸に渡ること」で、悟りを得ること。この文言の意味は、「自分は未だ悟りを得ていないのに、まず他人を救済しようと願うこと」であります。すなわち、自分のことは後回しにして、まず他人（衆生）を救済しようとするのであります。この願いは、生半なことでは実行出来ることではありません。仏さまならではの誓願といえます。

ところで、薬師如来の像容と脇侍（脇立）と眷属について、少しく触れておきましょう。

(1) 像容―一般的によく知られているのは、右手を施無畏の印になし、左手の掌の上に薬壺を載せている

お姿です。この薬壺は、除病を司る仏であることを象徴しています。いわば、慈悲の働きを象徴していると言つてもよいでしょう。

(2) 脇侍―本尊の左右に付き添つて立っているお像のことで、薬師如来は日月の徳を具象化した日光菩薩と月光菩薩を脇侍として従えています。本尊の薬師如来と合わせて、薬師三尊といいます。

(3) 眷属―本尊に随従する諸尊のことで、薬師如来を信仰する人々を守護するために、眷属としての護法神である十二神将を従えた作例もあります。この十二神将は、前述の薬師如来の十二大願に基づいていると言われています。

以上の如く、薬師如来は、主に現世利益の仏として信仰されてきました。だが、半面、死者の魂を救済する仏としても信仰されてきました。薬師如来は、死者に対して、現世に生存している人々の如くに教え導く仏としても信仰されてきたのです。この、死者をも済度する薬師如来は、七七忌、すなわち満中陰に当たる四十九日忌の守り仏とされています。すなわち、死後四十九日目より七日間、この薬師如来が死者の得脱のために法を説き、霊体を整えて、次の百ヶ日の守り本尊である観世音菩薩のもとに送り届けてくれるのであります。

四萬六千日燈明会 ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形作られた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。その後、本堂前において和太鼓の奉納演奏などの催しもございます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。

- | | | |
|------------|--------|---------|
| 一、日 時 | 八月九日 | 午後六時より |
| 一、会 場 | 須磨寺本堂前 | |
| 一、ご供養・ご祈禱料 | ろうそく | 一本 千円也 |
| | 祈禱札 | 一体 三千円也 |
| | 経木供養 | 一霊 三千円也 |

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆七月

○三十日(火) 子ども寺子屋修行

◆八月

○九日(金) 四萬六千日燈明会 みあかり観音 (午後六時) 須磨寺 本堂

○十二日(月) 十五日(木) 孟蘭盆会

○十五日(木) 盆大施餓鬼法要 (午前十時) 本坊客殿

○十七日(土) 青葉殿孟蘭盆会法要 (午前九時・正午・午後三時) 青葉殿

○十九日(月) 盆大施餓鬼法要 (午後二時) 櫻寿院本堂

○二十日(火) 盆大施餓鬼法要 (午後二時) 蓮生院本堂

○二十日(火) 二十一日(水) 盆大師(ご縁日)

◆九月

○七日(土) 東日本大震災復興チャリティーイベント 2000ギター弾き語り

○二十日(金) 二十六日(木) 彼岸会 特別護摩祈禱

(午前十時・午後二時) 護摩堂

○二十日(金) 二十一日(土) 彼岸大師(ご縁日)

○二十八日(土) 須磨 夜音 音楽法要祭

(午後六時)

◆十月

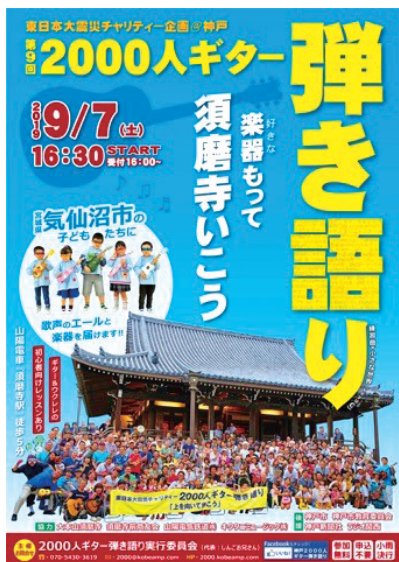
○二十日(日) 二十一日(月) 大師縁日

◆十一月

○二十日(水) 二十一日(木) 大師縁日

○二十三日(土) 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供

(午前十一時) 須磨寺 境内



須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り神事とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を破い福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。火渡りの方は当日お札、行者手ぬぐいをお渡しします。



記

一、日 時 十一月二十三日(土曜日) 午前十一時開白

一、会 場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご 祈 禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火 渡 り 厄年特別火渡り 五千円

一般火渡り 二千円〈先着百五十名〉

※火渡り神事は荒行です。多少のやけどもごさいます。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

令和二年 厄年表

平成 十四年生(女性) 厄年	平成 八年生(男性) 小厄
平成 元 年生(女性) 前厄	昭和五十五年生(男性) 前厄
昭和六十二年生(女性) 本厄	昭和五十四年生(男性) 本厄
昭和六十二年生(女性) 後厄	昭和五十三年生(男性) 後厄
昭和五十九年生(女性) 厄年	昭和三十五年生(男性) 厄年
昭和三十五年生(女性) 厄年	

須磨 夜音 音楽法要祭

真言声明と天台声明 平安の響き

令和元年九月二十八日十八時より、第五回となる「須磨 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平敦盛をはじめとする源平戦士への供養と平和への祈り、そして度重なる災害における慰霊と復興の祈りを法要の趣旨としています。

法要の内容は、元ブルーハーツのドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨琴の演奏とKiss FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして昨年に引き続き天台聲明兵庫社会奉仕會と須磨寺の僧侶が共に声明を唱えます。天台宗の声明と真言宗の声明、宗派を越えて共に祈ります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることができれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝下さい。



記

日時 令和元年九月二十八日(土) 午後六時より

場所 出世稻荷前 舞台

入場自由

お寺で学ぶ終活の智慧

須磨寺派潮音寺副住職 中山戒仁

『終活』は「安心」を見つける修行

最近、『終活』に関する情報番組や書籍・雑誌、著名人の終活に関する報道を見聞しますが、「終活」という言葉にどのようなイメージをもっておられるでしょうか。よく聞くのは「後ろ向き」「寂しい」「悲しい」等のマイナスイメージを持たれる方が多いようですが、一方で「準備しないと」「考えておかないと」「迷惑をかけないように」と必要なことと感ずておられる方も少なくないように思います。しかし、自身や大切な方の死出の旅路に向けた準備でもあり、心穏やかでいられないことも多分にあります。では、「終活」をどのように考えて取り組んでいけばいいのでしょうか。

日々の生活をしている中で出会いと別れを繰り返して、壁にぶつかって色々なことで悩んだりもします。この「生きている」「ことで生じる「苦」に正面から向き合うことが『終活』であり、色々な苦難を乗り越えて頂上を目指す山登りの修行なのです。山の頂には、苦勞と苦悩を乗り越えてきた成果である「安心」が待っているはずなんです。

では、『終活』が山を登る修行であるならば、どのような準備が必要なのでしょう。①「道標になる地図」②「修行するための行衣」③「覚りを得ようという発心」④「体力をつけるための食物」です。1つ目の「道標になる地図」とは、『終活』と一言で言っても法律・医療・介護・金融・デジタル・葬送・佛事等の事務は多岐に渡ります。それぞれの分野に詳しい専門家に支援して頂く必要があります。自分にとって必要な準備は何なのかを見つけるためにも大切な準備です。2つ目の「修行するための行衣」とは、執着や妄執を寄せ付けない心の鎧（浄衣）です。人は財や肩書や名誉等に固執してしまいがちで、そのことが人の意見を聞かなくなり、させてしまうことがあります。今まで頑張ってきた成果と想いを一度洗い流

して真つ新たな浄衣を着て身軽になって登山修行を始めるのです。3つ目の「覚りを得ようという発心」とは、自身が『終活』をする意義を明確にすることです。『終活』という山登りの修行をしていくわけですから、辛くて苦しいことや投げ出したくなることも出てくると思いますが、成し遂げる強い心を養い、持ち続けようとする心です。

4つ目の「力をつけるための食べ物」とは、心身に栄養を付けるものことです。大切な人と旅行や食事に行ったりすること（想い出創り）は心の栄養になります。また、断捨離して買い取ってもらったお金で好きなことをしたり、子供さんや孫さんにお小遣いをあげたりしてもいいのではないのでしょうか。身の周りのものを処分することは勇気がいります。しかし、その勇気を出すことで新たな喜びが見つけれれば少しづつでも頑張れます。心身の栄養は『終活』の山登り修行には必要不可欠です。

次に、いざ『終活』山登り修行を始めるのと色々な難所（課題）が出てきます。「専門家とのご縁」「知識の壁」「お金の問題」「人間関係」等挙げると色々出てきますが、頂上を見据えて自分のペースを守って出来ることを少しずつ片付けていくと不思議とあちらこちらから解決の糸口になるご縁を頂くことが出来たりします。その時に少し勇気を出してそのご縁を引き寄せてみて下さい。

歩みは小さくても歩みを進めれば少しずつ路は拓けてくるものです。

それでも、悩んでしまうことや家族に言えないこと、不安に思うことは必ず出てきます。我々が抱える大きな苦悩が集約された『終活』という山登り修行をされているのですから、答えの出ないことや不安なことが出てくるのは当然のことです。そんな時は是非お大師様やご自身の好きなお話を、或いはお寺へ出かけてみて下さい。お大師様やほとけさまにお話される、或いはお寺のご住職等にお話をされることで何らかの智慧や気付きを頂けるのではないかと思います。

ひとは一人では生きていきません。それぞれに支え合いながら日々を生きています。言うまでもなく旅立ちに向けても、旅立つ時も多くの方のお力をお借りしなくてはなりません。そのお力をお借りする大切な人の心身の負担を軽くすること、ご自身の想いや足跡を大切な人や後世に遺すことが『終活』なんです。

『終活』は修行です。楽しいことばかりではありませんが、実践する中で得られるもの、成し遂げた時に得られるもの、それはご自身の不安の解消につながり、将来に向けて心穏やかな日々を作ることに繋がります。

一人ひとりにあった『終活』を創造して、「安心」をご自身のものにして下さい。

須磨寺の歴史 へ二十三

蓮華三昧院(三)

前回は、蓮華三昧院開祖が明遍上人であることとお寺の名前の由来について書かせていただきました。今回は蓮華三昧院開祖の明遍上人について詳しく書いていきたいと思います。

明遍上人は平治の乱で処刑された信西の息子で、十九歳で出家し、東大寺に入ってから高野山に入山しています。明遍には多くの兄弟がいて、各方面で活躍していますが、特に関係が深かったと思われるのは醍醐寺座主、東大寺別当、東寺長者を歴任して高野山に入山して西谷に住むようになった勝賢です。その事は『真言宗全書』の『高野伽藍院跡考』に「已後親^{フリ}炙^シ醍醐ノ法味^フ」と書かれていることからわかるのですが、建久七年(一一九三)に勝賢が亡くなるこの世の無常を悟り、当時流行していた浄土教の教えに傾倒していきます。前回に書いた蓮華三昧院という名前の由来になった、境内が浄土に変わり、蓮華が庭に現れたという故事にも、「高野伽藍院跡考」を見ると、高野山中の念仏僧の結社である蓮社友が関わっていたという記述があります。

また文治の始め(一一八五年頃)に浄土宗の開祖である法然上人が弟子の安樂と、後に東大寺復興に尽力することになる重源を連れて明遍のもとを訪れて密教の法を授かり、恵心僧都の描いた阿弥陀三尊像を寄進したという記録が残されていることと、明遍の著作として「往生論五念門略作法」があることから、浄土教に対する傾倒が感じられます。

次回は高野山にあった念仏行者のグループについて見ていきたいと思います。

蓮生院 八月から十月までの行事予定

蓮生院死生観くつちゃべり会

参加者にはそれぞれ死生観について語り合う(くつちゃべる)集まりです。自分や他人の死生観に触れることで世界観を広げてみませんか?お寺の静かな空間で体験してみましよう。

日時…八月十七日(土)、九月八日(日)、十月六日(日) 十四時～十六時
場所…蓮生院客間 お気持ち…千円 持ち物…筆記用具・お飲み物
講師…山脇由記子

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想体験ですので、写経・瞑想をしたことがない人でも気軽に参加ください。また瞑想会の後にお茶を出させていただきますので、心身共にゆったりとしてください。(写経のみ、瞑想会のみ参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください)

日時…八月二十五日(日)、九月二十九日(日)、十月二十七日(日)
写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半(受付は三十分前から)
場所…蓮生院本堂 お気持ち…写経五百円・瞑想会千円

二つとも事前申し込み制です。

前日までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

蓮生院電話番号〇七八―七三一―二三一一

令和元年 年忌一覧

一周忌	平成三十年七	二十五回忌	平成七年七
三回忌	平成二十九年七	二十七回忌	平成五年七
七回忌	平成二十五年七	三十三回忌	昭和六十二年七
十三回忌	平成十九年七	三十七回忌	昭和五十八年七
十七回忌	平成十五年七	五十回忌	昭和四十五年七
二十三回忌	平成九年七	百回忌	大正九年七

◎ 献金のご報告 ◎ ご献金に感謝申し上げます。

おぎゃー献金基金	入金先: 日母おぎゃー献金 基金	¥51,236 入金日付: H28/12/27
盲導犬育成基金	入金先: 兵庫県盲導犬協会	¥31,187 入金日付: H28/12/08
犯罪被害者支援基金	入金先: ひょうご被害者 支援センター	¥13,072 入金日付: H28/12/15
熊本大地震復興支援金	入金先: 熊本県共同募金	¥132,000 入金日付: H28/04/27
熊本大地震復興支援金	入金先: 日本赤十字社	¥350,000 入金日付: H28/12/01
熊本大地震復興支援金	入金先: 熊本地震義援金受付	¥149,000 入金日付: H29/05/18
福島災害復興支援金	入金先: 福島災害対策本部	¥163,000 入金日付: H29/05/18
ネパール大地震復興支援金 ※朝コガ(和田朋子氏主宰)より	入金先: ネパール大使館	¥38,500 入金日付: H29/04/25

九州水害復興支援金	入金先: 益城町災害対策本部	¥57,000 入金日付: H29/08/04
盲導犬育成基金	入金先: 兵庫県盲導犬協会	¥23,807 入金日付: H29/09/28
犯罪被害者支援基金	入金先: 公益財団法人 ひょうご被害者支援センター	¥8,074 入金日付: H29.12.26
おぎゃー献金基金	入金先: 日母おぎゃー献金 基金	¥50,903 入金日付: H29/12/28
盲導犬育成基金	入金先: 兵庫県盲導犬協会	¥13,477 入金日付: H30/2/19
東広島災害復興支援金	入金先: 東広島災害対策本部	¥141,300 入金日付: H30/9/28
福岡県豪雨災害義援金	入金先: 福岡県平成30年7月 豪雨災害義援金受付	¥150,000 入金日付: H30/9/28
犯罪被害者支援基金	入金先: 公益財団法人 ひょうご被害者支援センター	¥13,638 入金日付: H31/2/12

H1 法話グランプリ

～仏教をひろめる試み～

八名の僧侶が創意あふれる法話を披露



去る六月二日に、大本山須磨寺の青葉殿講堂において「H1 法話グランプリ」が開催されました。この大会の実行委員長を、本坊副住職の小池陽人が勤めました。僧侶たちが、仏の教えを説く「法話」を披露し合う催しで、超宗派では初めての試みとなりました。全国各地から集った浄土真宗大谷派、真言宗豊山派、日蓮宗、天台宗、臨済宗妙心寺派、曹洞宗、浄土宗（登壇順）伝統仏教七宗派、僧侶七組八人が登壇し、それぞれ制限時間十分で法話をしました。約四百五十人の来場者と五人の審査員が、話の優劣ではなく「もう一度聞きたいお坊さん」を基準に投票し、得票数が多かった僧侶がグランプリとなります。

自薦他薦で集まった、七宗派八名の僧侶の方は、競い合うという意識ではなく、仏教を伝える同志として、それぞれ個性あふれる素晴らしい法話をされました。皆さん「生きる為の仏教の教え」をお話されていました。

最後の模範法話は、福岡県篠栗霊場南蔵院のご住職、林覚乗先生にご法話いただきました。会場は、笑いと涙と感動に包まれました。

※YouTubeチャンネル「須磨寺 小池陽人の随想録」にて、当日の様子がご覧いただけます。よろしければ御覧ください。



仙師逍遙



須磨寺公園の池のさざ波に、睡蓮の花が揺れています。

ひつじぐさ。睡蓮は未の刻（午後二時）にやっと花開くところから、そう呼ばれていると、若い頃通った俳句会で教えてもらった記憶があります。けれど、私が出会った限りでは、そんな寝坊な睡蓮は見かけず、朝から夕方まで開いているのが普通のように、眠けを催しているのは寧ろ、昼下がりの睡蓮の、あのやさしい揺れ心地を目にしている人の方で、名の由来も案外そんなところかもしれません。

ともあれ、これから夏の終わりまで、散歩の足を止める方の姿が見かけられますが、季節毎に咲く花は、まるで勤勉な宅配便のように、思い出の中でも、今でも、褪せることのない贈りものを届けてくれます。

もう何年前になるのでしょうか。あれは私がまだほんの駆け出し仙師の頃です。

須磨寺塔頭蓮生院ご住職から薬師如来様彫像のご依頼をいただきました。打ち合わせに参上し、お話をしていた薬師如来様が納まる厄除大師堂の前に、大きな古い火鉢が置かれていて、そこに一輪の蓮の花が見事に咲いていました。

なぜそんなことを覚えているのか、そこまでは定かではありませんが、寺院に納まるお仏像の彫像にひたすら張り切っている割に、経験の浅いもの知らずの新米仙師の私に、私と同年齢くらいの富永ご住職はお仏像への思い、材質、持物、様式、実にご熱心に語ってくださいました。

仏像という形が持つメッセージを伝えることの大切さを、薬師さまの左手にもたれる薬壺の歴史を踏まえて、木ではなく水晶をご指定されたことなど、仏師を目指して父に入門して十年半ば、刃物が一人前に研げて、漸く木肌心地よい跡が残って、形としての仏像が彫れる喜びに浸っていた私には、その語られる言葉の全てが新鮮に意味深く聞こえました。熱意溢れるその時の若々しいご住職の顔をよく覚えています。

お納めできたのは昭和五十九年のこと。その数年後には、仁王像お修理のために須磨寺門前に工房を持ったこともあって、しばしばお目にかかり、親しくご交誼をいただいていた。

「同じ龍ですか」

ご住職は龍に心の「龍心」。私は修行時代の「竜雲」の字を龍雲に変えたばかり。よくそんなことを口にされました。

ところが平成七年阪神大震災、須磨寺界隈も甚大な被害を被り、あろうことかご住職富永龍心師は全壊の本堂と共に早逝されました。其の後、蓮生院ご住職となられた奥様を始め、ご家族はいかばかりのご苦勞を経験されたことでしょう。

現在はご長男富永龍弘師がご住職になられて、震災後十年、本堂は立派に再建され、私も落慶法要の席に連なりました。兼務されていた一ノ谷貞照寺も、須磨寺境内蓮生院本堂に並んで、来春完成の予定で工事が進んでいます。そして、同時に永代供養堂も移設されて、御本尊となる阿弥陀如来様彫像のご依頼を頂きました。

何度か重ねた打ち合わせの席や、胎内に納められる宝珠を工房で彫られた時など、まだお若いご住職と差し向かいであれこれお話をしていると、ふと勘違いしてしまうことが何度もありました。それほど面影も物腰もご尊父によく似ておられます。

龍心和尚と語り合えた日々が、三十五年の時を超えていまここにあり。木曾檜の香りの中で、鑿をふるいながら何度もそんなことを思いました。弥生月も満ちた日の午後。二、三日の冷え込みが緩んで、供養堂内にお納

め成った阿弥陀如来様は、まるでもう遙か以前からその場におられたかのように、ゆったりと位置につかれました。悲喜交々、尽きない思い出のページを、はらりはらりと繰っている頭上に、おだやかな春の日差しが嬰兒を撫でる手のように、絶え間なく降り注いでいました。

そして永代供養堂の完成を待つて、水無月の三十日。檀信徒の方々の参集の中、落慶法要がおこなわれました。当日は前夜からの雨。

読経のあとのゆるりと膨らんだ時間に、

「雨のお話をしましょう」

と、爽やかな笑顔で、

「この人の世の中でむすばれる様々な縁の、かくも美しい」と語られるご住職の「雨のお話」を聞きながら、テントを打つ時に強くまた時に優しい雨音と共に、ここに始まる新しい空間につつまれていました。

須磨寺大仏師

山高龍雲



蓮生院 永代供養堂本尊 阿弥陀如来像